

福島っ子サマーキャンプ 2012



Go my way
～自分の未来を信じ、進め前へ上へ～

期間：2012年8月5日～19日



● もくじ

福島っ子サマーキャンプ2012

▶ はじめに P.1

僕たち私たちの生活 ～15 日間の歩み～

あたり前であることの喜び

ほんとうに“つよい人”とは

食べること＝生きること

歌うチカラ

葛藤～過ぎていく時間～

乗り越えた壁

子ども会議

子ども会議の記録①～③

▶ むすびに P.15

東栄町長から

保護者から

福島の学生から

Dew から





触れられぬ虫と草。

愛知県での日常が、特別な非日常。

● はじめに

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ
サマーキャンプ子ども副隊長 須田元子
金城学院大学 2年



「おかえり！」
「はじめまして！」

この一言で今年のキャンプも始まりました。今回で3回目となるキャンプですが、毎回キャンプを開催する意味が違うと思います。

初めは「子どもらしい、心からの笑顔を取り戻してもらいたい。」という気持ちで始まったキャンプでしたが、今は子ども達一人ひとりが少しずつ前へ向かって進み“今を生きる”とは何かを真剣に考え、子ども達自身にも心の変化が見えてきた気がします。

子ども達と過ごした2週間ともに泣き、ともに笑い、ぶつかり合ったふとした瞬間に見せる心の奥に抱えている悲しみや辛さに、子ども達が震災で受けた傷の深さを感じます。

その中でも、私達に見せてくれる無邪気な笑顔、スタッフが泣いていたら手紙をくれ「大丈夫？」と声をかけてくれる子ども達の姿に元気と勇気をたくさんもらいました。

キャンプも終わりに近づいた頃、今回のキャンプのテーマソングでもある「勇気の花」という曲を全員で歌う時があり、歌詞の一言ひとことがまるで今の私達に贈られたメッセージに聞こえ、心に深く響きました。

子ども達は震災が起きてから常に自分の将来と向き合えずにいます。小学生ならば、明るい未来が待っていると思うこの時期に『10年後、自分は生きているのだろうか？』『放射能はなくなっているのかなあ？』といつも心の片隅で考えてしまう子ども達は、そう思うことが当たり前になってきているのではないのでしょうか。

子ども達の笑顔にはチカラがあります。子ども達の泣き顔には、人の心を動かすほどの感情がいっぱい詰まっています。そんな子ども達の表情にそっと目を傾けて見てください。

子ども達が私達に涙ながらに教えてくれたところの叫びを一人でも多くの人に伝えたいです。

この夏ともに歩んだ日々を胸に、一歩ずつ前へ…



● 僕たち私たちの生活 ～ 15 日間の歩み ～

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆
	自由時間	川遊び	大運動会	* ソフトボール * 朗読会	茶臼山高原散策	
東栄町到着 オープニング				飯盒炊飯 吉田沙保里選手 応援	御園到着	* ストーンペイント * プール * 木のおもちゃ 作り
明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝
12	13	14	15	16	17	18
朝の準備 ☆	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆	朝の準備	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆
自由時間	* ダム見学		ホクササイズ 五平餅 流しきしめん	日本モンキーパーク	ドンぐリの植樹	
志多ら太鼓 スィカ割り大会 BBQ	* 灯籠づくり Dew ライブ	盆踊り FM 岡崎	チェーンソーアート * プール		大掃除 * 花火・* 肝試し	フィナーレ
明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝
19	記述されているプログラムすべてに子ども達全員が参加しているわけではありません。 子ども達の自主性に任せ、選択性としています。 ☆…宿題を最低 1 時間行った日 * …選択性のイベントを行った日					
朝の準備						
愛知県出発						



● あたり前であることの喜び

私が小学生のころの夏休み、家族と旅行やキャンプをしたり、友達とプールに行ったり、日が暮れるまで遊び回っていました。おかげで私の肌は、真っ黒に焼けていました。

しかし、福島の子ども達が過ごした夏休みは、私の思い出の中にある小学生時代とはかけ離れたものでした。

福島の子ども達が愛知に来て 2 日目の自由時間、ある女の子が保健室に飛び込んできました。見ると、ヒザやヒジ、あちらこちらがケガだらけ…。その子が発した第一声は、

「久しぶりにこんなケガした！」と満面の笑顔でした。

その言葉と表情にハッと息を飲みました。



その後、彼女は どうしてケガをしたのかを楽しそうに語ってくれました。

「外で遊んでいたら、大きな穴にひっかかってこけたの！」友達と外で走り回るのも、穴や石につまずいてころぶのも、子ども達にとっては久しぶりの出来ことだったのです。

震災から 1 年と 5 ヶ月が経ちました。

室内でしか遊べないこと、道端の草花に触れられないこと、いろんな“出来ないこと”が、突然子ども達の身にふりかかってきました。しかし、その出来ないことが自分達の力ではどうにもならないことを子ども達は分かっているのです。

愛知に来て思いっきり遊び回る子ども達の“笑顔”は本当に輝いています。だから、ただあたり前のことをあたり前に出来ることが嬉しいのです。



これが、子ども達の 1 年以上が経っても続いている“イマ”です。

● ほんとうに“つよい人”とは・・・

サマーキャンプの後半に差しかった頃、一人の子どもが落ちていたゴムバンドを見つけ、ふざけて友達に飛ばして、友達を傷つけるということがありました。

ある子は「やった本人が悪い」と自分は“無関係”であると話しました。
ことを起こした本人も「ふざけてやっちゃった」と、笑いながら話しました。

このようなことは、日常的にはよくある話だと思います。

そして、子ども達は話し合いました。

「放射能のことで傷ついてやって来たのに、また傷つけ合う時なのか？」

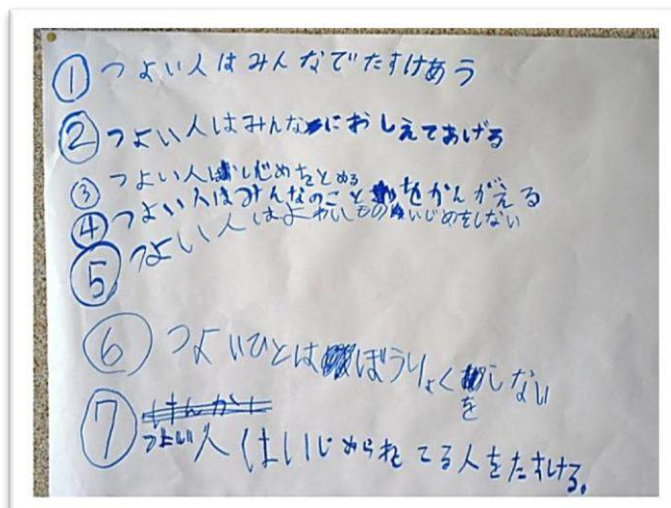
「こういう時だからこそ、支えあって生きていかなくてはいけないのではないか？」



そんなことを子どもながらに、一生懸命話し合いました。

「僕達は、傷つけあう大人にはなりたくない」と言い、そのためには「強い人になる」という答えを出し、一人ひとりが“ほんとうにつよい人”とは、どういう人なのかを考え、発表しあいました。

福島の子ども達は、私達が送る日常生活に加え、さまざまなストレスと向き合い生きていかなくてはなりません。このような厳しい状況の中、このサマーキャンプで、子ども達一人ひとりが、強い人とはどういう人なのかを真剣に考え、強くなろうと決心したのです。



子ども達は、同じ失敗や悲しみを繰り返さないように、自分達が考えられることは何かを、教科書では教えてくれない“つよく生きる”ための術を、このキャンプで学びました。

● 食べること＝生きること

食をめぐる福島県の現状は未だに多くの問題を抱えています。もともと美しい水と気候に恵まれた土地であるため、美味しい農作物や畜産物が豊富な地方であった福島県。原発事故災害後はその豊かな水や空気、土壌そのものが汚染されてしまったため、今まで何も考えずに当たり前のように口にしていた様々な食べ物は、考え調べて食べるものになってしまいました。

初めて牛乳が出た朝、「震災後初めて牛乳を飲んだー！」という声が出たほどです。学校給食でさえも、相談し自分たちで選択しながら食べている日々は、1年以上が経った今も変わることはありません。

少しずつ除染が進み、空間放射線量が下がっている所もあれば、そうでない所もあり、子ども達の心を発散し、安心した食卓を囲む日が来るまでに、あとどれぐらいの時間が必要なのでしょう。

たったの2週間かもしれませんが、子ども達が何にも縛られず、我慢せず、気を使わずに、元気に外で遊び回ること。そしてその力の源となるご飯をしっかりと食べてもらうことが、必要不可欠になります。
「めっちゃ美味しい!!!」「僕こんなにいっぱい食べたの初めてだよ!」



このような言葉が飛び交う食卓には、いつもたくさんの笑顔がありました。

● 歌うチカラ

今回のサマーキャンプには、歌手の Dew のお 2 人が私達の元へ透き通る歌声を届けに来て下さいました。

Dew さんとの出会いは昨年行われたウィンターキャンプの際、スタッフから子ども達へ歌った「君へ ～forever friend～」がきっかけでした。その歌の中に込められた思いは、私達が子ども達と共に歩んできたこれまでを物語っていました。

上級生が中心となって“あおぞら音楽会”という練習会を自ら企画し、大きな声で歌う子ども達の声は青く広い空に響いていきました。

練習を繰り返すうちに、これまで一緒にいなかった子と、自然に隣同士で歌う姿が見受けられ、子ども達は知らぬ間に“一体感”に包まれていきました。



福島県内の様々な地域から集まった子ども達は、このキャンプを通してたくさんの新しい友達ができました。

震災後、今まで一緒に遊んでいた友達が転校してしまったり、思い出がたくさん詰まった土地から離れなければならないってしまったりと、寂しい思いをしてきた子ども達は“歌うチカラ”によって“一緒に頑張ること”の大切さを思い出し、ひとつのものを創り上げる喜びを感じる事ができました。

ライブ中、Dew さんの透き通る朝露のような歌声に耳を傾け、肩を揺らしながら流す涙はどこか、心地よい涙のようにも見えました。

テーマソングである「勇気の花」を全員で歌う時、自然と隣にいる人と肩を組み、大きく口をあけて元気いっぱい歌う姿は“友達”から、かけがえのない“仲間”の存在へ変わっていく瞬間でした。



「これからも一緒に乗り越えていこう！」

大切な仲間が出来たこの一瞬の出来事は、子ども達にとって一生の夏休みの思い出となった事でしょう。

● 葛藤～過ぎていく時間～

この2週間のサマーキャンプは、子ども達が子どもらしく生活することはもちろん、参加した保護者の方々にも福島から離れ、のびのびと生活してほしいという願いもありました。



おいしい農作物が育つ土地で、きれいな花が咲き、海や山の近くで育ってきた福島のお母さん、お父さんは、その大自然の中でわが子を育てようと考えていました。

しかし震災後、「花に触ってはいけない」「外で遊んではいけない」

「お願いだから放射線量の高いところにはいかないで」そう子どもに言う日々が続くようになりました。

今までの生活から一変“見えない未来”への不安が目の前に広がりました。

キャンプ中、ある8歳の男の子の歯が7か月後に生えてくるという出来事がありました。実際には歯が生え変わる時間には個人差がありますが、今の福島県では“放射能”の影響ではないかと、見えない恐怖と常に戦わなければいけない現状があるのです。

いつまでこの不安と戦わなければならないのでしょうか。

お母さん、お父さんが流す涙の中には“子ども達を守る”という責任と“見えない未来”との葛藤があり、その葛藤は時間が過ぎていくのと比例するかのように徐々に大きくなっていくのです。



● 乗り越えた壁

原発事故による放射能の影響を避けるため、ふるさとの福島県から、見ず知らずの土地へ疎開している子ども達が、全国にはたくさんいます。

愛チカラのキャンプにも、昨年のサマーキャンプ、ウィンターキャンプに参加し、この事がきっかけで“母子疎開”という形で、愛知県へ引っ越してきた女の子がいます。

その子は、新しい環境に対する不安や、福島という“ふるさと”を強く思うあまり、愛知県に引っ越して来てからは、進んで友達を作ることが出来ずにいました。

キャンプが始まって間もないころ『久しぶりに福島の友達と会えてうれしい！』という気持ちがいっぱいになり、仲の良い友人と2人で集団生活からはみ出してしまう場面がしばしば見られました。

そんな中で起きた他の子とのささいなケンカが、心の奥にあったキャンプに参加する“本当の理由”に気がつくきっかけとなったのです。

それは、心を開きキャンプで友達を作る“努力”をすることでした。改めてそれを思い出したとき、今までの不安や、自分で閉じ込めていた本当の気持ちが大量の涙になってあふれ出しました。



子ども達の瞳の奥には、普段の生活からは見えないような複雑な思いや、子ども達の決意があります。少なくとも、原発事故による放射能の影響がなければ、このような苦しみを味わう必要がなかったのは確かです。

最終日、スタッフと並び“福島へ帰る”友達に手を振るこの子の姿には、今までの自分に別れを告げるかのような、どこか強い意志が見られました。



“乗り越えた壁”の向こう側へ一歩踏み出す勇気をもらったこの子はイマ、ただ前だけを見て、生きています。



子ども達の「本当はね…」



あなたの子どものころの夢は何ですか？

この子達の夢は叶いますか？

● 子ども会議

「素直に言えばいいのに…」

そう言われたとき、子ども達は大粒の涙を流しました。

これまで、なかなか話そうとしなかった子ども達は、自分の心の中に抱えていた思いを言葉にして伝えるために、肩を揺らし、涙を流して精いっぱい闘っていました。



「本当は、外で思いっきり遊びたい」「結婚をする時に、差別されないか不安なの」と、涙と一緒に心からあふれてきた思いは、子ども達の過ごしてきた日々と現状を写し出していました。

子ども達が少しずつ心を開き、自分の思いや願いを振り絞るその時に、その場に一緒にいる仲間の一人として、子ども達の思いに少しでも寄り添いたいと感じたこの時の出来事は、この先も忘れる事はありません。

やがて、子ども達が生きていく上で、自分の話を聞いてくれる人がいると言うことは、自分の存在を認めてくれる人がいるという安心感につながり、これから先の子ども達にとって大きな支えになると思います。

あの事故によって、一度閉じてしまった心を再び開くことは簡単にできることではありません。

子ども達が、私達に向けて“伝えて欲しい”と願い、こぼした涙のカケラは、2 週間という長い時間を共に過ごした私達だからこそ向き合う事ができた、ここでしか話せなかった、本当の声です。



● 子ども会議の記録①

○参加者：福島県内小学生 16 名（男子 7 名、女子 9 名）

※居住地域（福島市、郡山市、伊達市、いわき市）等

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ 代表 石原 杏莉

同 事務局長 鈴木 理恵

同 キャンプスタッフ 福島県大学生 4 名

同 愛知県大学生 4 名

保護者代表（小国からの笑顔代表） 大波 尚美

※子ども会議は、当団体が主催する 2 週間の保養キャンプのプログラムの一環として行われました。福島県各地から参加した子ども達が、「子ども・被災者支援法」に対して望むことを、自分の言葉で述べるための場となっています。

1、はじまり ―誰にも言えない理由（わけ）―

子ども達は、この会議が始まってしばらく、口を閉ざしたまま、ニコニコしていました。まるで、自分達の話題ではないように…。楽しいわけでもなく、嬉しいわけでもなく。

ただ、笑っていました。

…震災後、誰にも言えなかった本当の気持ち。

その気持ちを簡単に引き出すことはできませんでした。

目の前の子ども達は、大事な何かを抱え込んだまま、黙っていました。震災と原発事故から 1 年と 5 か月。現実を受け入れることしかできなかった事実だけが、静かに突き付けられた時間でした。

2、きっかけ ―なぜ、僕達わたし達はココにいるのか？―

「みんなはさ、どうしてココにいるの？」

スタッフの語りかけに、子ども達は、うつむいた顔を一斉にあげました。

「放射能から逃げるため…」

子ども達は、答えました。理由を知らされずこのキャンプに参加した子どもも、最終日を前になぜ、自分がココにいるのか子どもなりに理解をしていました。

そういう子ども達の目には、何が映っているのかをスタッフは必死になって、子ども達の心の声に耳を傾けました。

「なんで、僕達だけがこんな目にあうのか？」

「どうしてお母さん、お父さんを苦しめるのか？」

「きれいな福島を返してほしいだけに…」

● 子ども会議の記録②

“なんで！？”“どうして！？”…毎日少しずつ心に積もっていったやり切れない思いを通り越して、“何も言っちゃいけないんだ”そういう空気が漂っていました。

子ども達に向かってスタッフは、こんな風に語りかけました。

「国が、みんなのことを助けてくれるって話をしているわけじゃないよ。でもね、みんなが助けて欲しいと本気で思った時に、自分達のためにできた法律を知らなかったら、助けてもらうことはできないんだよ。“知らない”っていうだけで、助けてもらえないかもしれない。それって、おかしいよね。でも、それが本当のこと。」

それでも、子ども達の心は閉じたままでした。表情はこわばったままです。

「子どもだからと言って、放射能の問題と向き合わないということは許されません。このキャンプはどうしてあるの？大学生のお兄さん、お姉さんが一生懸命、みんなに必要な助けを考えてくれたからできたこと。だから、みんなにも、ちゃんと考えて欲しいと思います！」

それで、少し、子ども達の表情が変わりました。2週間、必死で面倒を見てくれた大学生のお兄さん、お姉さんの顔を浮かべているようでした。

「みんなの思い、お母さんの思い、お父さんの思い、たったひとつでもいい、伝えて欲しい。伝えてくれたら、国のために働いている人達にちゃんと伝えるから。」

そう言うと、子ども達の目の色が変わりました。子ども達の勇気のスイッチは、“大切な誰かを思う気持ち”にありました。

3、子ども達の本音 一言えなかった、ホントはね……

スタッフも、本音で子ども達にぶつかりました。

「みんなと同じ年の頃は、晴れていたら毎日外で遊んで、楽しい思い出しかないよ。福島では、外があんなにきれいに晴れているのに、外で遊びたい！って泣く子どもの姿を見るととても悲しいよ。みんな退屈でしょ？だったら、そう言えればいいのに。“我慢”するから伝わらないんだよ。怒られるから言わないの？この先どうなるか不安でしょ？ママとパパみたいに幸せな家庭を築きたいでしょ？もし福島の人だからいやだって言われたらどう思う？」

その瞬間、子ども達の中から、涙が零れ落ちました。せきを切ったように肩を震わせ泣きました。

そして、ようやく、子ども達一人ひとりが“これが精いっぱいだよ”というように、本当に小さな声で、その一言を絞り出していきました。



● 子ども会議の記録③

- ・放射線の事で体調が心配。放射線の情報を知りたい。
わからないことだらけで不安になる。(小 6 女子)
- ・外で遊びたくなったり放射線で体調を崩したりだとかして、おばあちゃんが心配です。(小 4 女子)
- ・おばあちゃんとかにもっとおいしい野菜を作ってほしい。
野菜が作れるようになってほしい。(小 4 女子)
- ・福島の人に元気になってほしい。(小 3 女子)
- ・やっと除染が入った。不安だった。放射線の事でお母さんとお父さんがときどき怒ったりする
(東電の事、なんで福島に原発を作ったのかというようなこと)聞いているのが嫌。(小 5 男子)
- ・震災があってから、お父さんが家にいる時間が少なくて帰ってきても遅くて、お父さんの顔を見るのが休日とかでさみしい。(小 6 男子)
- ・震災が起こって、お父さんの仕事が大変になって、休みがなくなって、しゃべってきてくれる回数が減った。さみしい。さみしいときは、ペットとかと遊んでいる。(小 4 男子)
- ・放射線の影響で友達が 5 人もいなくなった。福島でいつもゲームばかりしているから愛知へ避難した友達の家に行ったときもゲームしちゃってつまらなかった。(小 6 男子)
- ・地震のせいで父さん母さんが、放射能の話でケンカするようになって、聞くのも嫌になった。
(小 4 男子)
- ・ほんとは外で遊びたい。こっそりしか遊べない。入学してからずっと外で遊べない。1 年生の時、外で遊べないからゲームしていたけど、あきちゃって自転車でこっそり遊んでいる。遊ぶ事はいけないことじゃないのに、怒られることに対して慣れちゃった。いつもつまらない。川で水遊びをして、野球とか、サッカーとかで遊びたい。もっと走りたい！(小 2 男子)

4、終わりに。 —子ども達から受け取った、世代のバトン—

翌朝、一人の女の子がスタッフのところにやってきました。

いつものように甘え、ふと意を決したようにこう言いました。

「ちゃんと、偉い人につたえてね。」ちゃんと言えた！そう言わんばかりに、女の子の表情は、とびっきりの笑顔に変わっていききました。

“大切な誰か”を思う気持ちをバネに、一步を踏み出した子ども達。その子ども達は、私達の誇りです。

“世代のバトン”を渡してあげるはずの大人達が、逆に子ども達から受け取ったバトンでした。そんな子ども達の本当に望む支援を、今、私達大人はゆがめてしまわずに全うすることが必要なのではないのでしょうか？

● むすびに

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ
サマーキャンプ隊長 横倉亜美
至学館大学 2年



子ども達が愛知県に来るのを楽しみにしているように、私達愛チカラのスタッフも子ども達と会える事をいつも楽しみにしています。

安全面、健康面には可能な限り気を配り、どのようなプログラムを組む事で楽しい夏休みを過ごせるのかなど、何度も何度もミーティングや下見を重ね子ども達の為に準備を進めて来ました。

スタッフの中にはアルバイトの時間を減らし、睡眠時間を削り、裏方に徹して動くなど、それぞれのスタッフが全力で子ども達を受け入れる為に、駆け抜けてきました。

今の福島の子供達は、私達が小学生のころに思い描いていた時と同じように、夢や希望を抱けているのでしょうか。

キャンプ終盤で実施した“子ども会議”で子ども達が今まで抑え込んでいた「本当はね…。」は、抑え込んでいた思いを何とか自分の言葉で発し、目からは大粒の涙が溢れていました。

子ども達にも、まだまだ未来が待っています。

子ども達が本当に求めている事とは…。
もし、自分自身が被災者だったら、何をして欲しいのかを私達は常に考えています。この活動は、決して楽しい事ばかりではありません。しかし、子ども達の涙と笑顔を出すと自然と一歩踏み出す勇気が湧いてきます。

私達は、これからも子ども達と共に生きていきます。子ども達に必要とされている限り全力で支えていき、子ども達の心の成長と同時に、私達愛チカラのスタッフも強くなり成長していきたいと思います。

最後になりましたが、この度、子ども達のために町を上げてお支え頂いた東栄町の皆さまをはじめとする、ご協力頂いた多くの方々、本当にありがとうございました。

お支え頂いた皆様の想い、学生の想い、保護者の想い、そして子ども達の想いがすべて重なった時に子ども達の最高の笑顔が生まれました。私達学生はまだまだ未熟で至らない部分ばかりですが、これからも“子ども達のために”精一杯頑張っていきますので、ご指導の程よろしくお願い致します。



● 東栄町長から

愛知県北設楽郡東栄町
町長 尾林 克時



子どもの笑顔、子どもの声、甘える可愛いぐさ、泥んこの校庭を思いつきり走る姿・・・何ものにも変えられない感動の場面に幾度も遭遇しました。

この東栄町で過ごされた2週間、いかがだったのでしょうか？

子ども達にとっては親元を離れての少し勇気のいる生活、団体で行動する厳しさ、優しいお兄さんやお姉さんとの触れ合い、体育館での雑魚寝、転んだ擦り傷、すっかり日焼けた川遊び、毎日の温泉入浴など貴重な体験であったと思います。

学生諸君には、宿泊施設も十分ではなく、今回はすべてが手作り。食事から寝ることに至るまで、自分達の力で率先してやらなければならないので、さぞかし戸惑いや苦労があり、しっかり実践勉強をされたと思います。

天候が不調のため徹夜の洗濯が続き、自炊による献立や調理、材料の調達など、実にチームワークよく「心をついに」して頑張られたと敬意を表します。

私共にとりましても、この2週間はそれらのことを気遣いながら見守ってきました。行政がどこまで関われるのか、許されるのか？戸惑いはありましたが東栄町での2週間の滞在を何事もなく無事終わられて、心から安堵しています。

実に感慨深いものであり、何より東栄町を再認識する機会でもありました。

美しい山並みや綺麗な清流、そして澄み切った空気が保たれ、大自然は誇れるものであること、また議会や町民の皆様方には、実に多額の募金をはじめ、米や野菜等の心温まる差し入れを実に多くの方からいただき、心から感謝いたしております。

原発の大事故は長く記憶に残りますが、同情や感情の風化は早いものです。

しかし、そこにに関わりあった人としての繋がりと連帯感は、「絆」として長く心に残ります。若い諸君の「何とかしたい」そんな気持ちを素直に手助けできる社会を造り上げるのも、私達の責務であると痛感しています。

最後になりますが、子ども達との関係は、可愛い孫くらいと考えていましたが、実際は50歳以上離れた曾孫の存在であったことは少しショック。曾孫の未来のためにも平穏な世の中の構築、拳をあげて身を震わせて奮起することの教訓を得ました。



「We are family!」の合言葉を心に響かせて・・・

(愛知県知事訪問時撮影)

● 保護者から

小国からの咲顔
代表 大波 尚美



原発の事故から1年半以上が過ぎました。

福島での生活は事故が起きたとは思えないほど普通に帰りつつあります。

学校や公園など、モニタリングポストの数値は、まだまだ高い数値が出ているところもありますし、少し歩けばそこはまた違う数値であり、“どこが安全”で“どこが危険”なのか、何が正しくて何を信用するのか、ご家庭によって様々です。

今でも不安を抱えて生活をしている方は沢山居ます。そのような中で、不安を口にする人の居心地が悪くなっているのが福島県の現状であります。

今回参加させて頂いたキャンプでも、それぞれの家庭で目的は様々だと思います。放射能と当たり前に生活をしないでならない中で、福島から少しでも離れ、子どもらしい時間を取り戻した2週間は子ども達にとって、とても貴重な時間だったと思います。

私の中では、低学年の女の子達が、小さなキレイな石を嬉しそうに探している表情がとても印象的でした。男の子達も、野球や、サッカー、虫取りを、時間が許す限り楽しんでいる姿がとても“新鮮”に見えました。

大運動会で汚れた体操服や、やりきった表情を見た時に、親としてとても嬉しかった事は記憶として消える事はないでしょう。

キャンプ終盤で子ども会議を行い、自分のココロの中の不安や悩みを頑張って話してくれました。でも私は、今までのキャンプでも感じていました…、いつもこの子達は、子どもながらに不安があるのです。でも、両親に心配や迷惑をかけないように、我慢しているのだということを…。

大人の私達が考える以上に、子ども達の心は不安でいっぱいです。この報告書をきっかけに、少しだけでも良いので子どもさんとこの問題について、向き合って話してみたいはかがでしようか。

私は、保護者の代表としてこれからもこのキャンプが続く限り、送りだす保護者さんの気持ちと、子ども達の気持ちに寄り添って参加させて頂きたいと思います。

いつまで続くのか分からないこの問題ではありますが、1日も早い復興を願ってこれからもお支え頂ければ幸いです。

最後になりましたが、このキャンプで私達の為に、沢山のご支援を頂いた多くの関係者の皆さまに参加者の代表として心より御礼申し上げます。

● 福島の学生から

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ
福島支部 北村友歌代
福島大学 2 年



私は、双子です。双子の姉は奈良の大学に通い復興支援なんてやらずに生きています。震災が過ぎて1年以上が経ち、私は今年も何にも頑張るつもりはありませんでした。

このサマーキャンプには、大学の友人の誘いで不順な動機で参加しました。

現場に立った時、福島県外の同世代の子達がこんなに連日連夜がんばっている姿を見て『愛知県の学生は、復興支援なんてしなくても、いつもの日常を生きていける人達で、むしろ、福島県で暮らしている私達が復興の為に何かしなくてはいけないのに。』と、前に進もうとせずにいた自分が恥ずかしく思えてきました。

これがきっかけで“現実の福島”に関わっていこうと思え、愛知のみんなの姿を思い出すと“現実”と向き合う勇気をもらえます。私の妹と同じ年齢の子ども達が思いっきり外で遊んでいた姿を思い出すと、福島の現状に慣れきっていた自分にハッとさせられました。キャンプが終わり、1ヶ月以上たった今でもうまく言葉にできないくらい、私はこの夏に大きな影響を受けています。人生がプラスにかわったと確信しています。健康に生かしてもらっている間に、多くの事を経験して自分達の福島にこれからの為に、何かできたらいいなと思います。

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ
福島支部 木村公美
福島大学2年



“復興・絆”この言葉を考えると、今でも何かに締め付けられたかの様に、私は何もできなくなってしまいます。しかし、愛チカラから学んだことは、言葉にとらわれずに、素直にしてあげたいと思う相手に自分の気持ちをぶつけ、自然とそれにともない行動できる身軽さを持つ大切さでした。

よく周りの人から愛チカラをして何が変わったかを聞かれる機会があります。本当の事を言うと、自分がどう変わって、どう成長したかについて実感はありません。でも、自分の震災への関わり方をようやく見つけられたことは確かだと思います。愛チカラを通してのかけがえのない経験、サマーキャンプでの子ども達の笑顔、親御さん達の新たな一歩を踏み出す前向きな姿は、どんな時でも私に勇気をくれ続けています。きっと、愛チカラとの関わりがなければ、私は未だに何もできず、いつまでも考えてばかりで前に踏み出す事ができない生活を送り続けていたでしょう。

やっと見つけられる事の出来た“素直に動く大切さ”をこれから先も決して忘れることのないようにしていきたいと思います。

そして、最後に私と関わりを持ってくださった多くの方に深く感謝したいと思います。本当に、本当にありがとうございました。

● Dew 清水悠さんと大西春奈さんよりメッセージ

今回、福島っ子サマーキャンプ 2012 への参加を通して福島子ども達や愛チカラのみなさんと出会えたことを心から感謝しています。

皆さんと触れ合っただけで感じたことを一言で言いますと、「皆さん本当にたくましい！」。この複雑な状況の中でも、前に進んで行こうという気持ちで参加されているのがひしひしと伝わってきました。

このキャンプに参加する前の話ですが、以前新聞で放射能の事を知ろうと、線量計を持って校庭に集まる先生や生徒達の記事を見ました。地震のこと、津波のこと、原発のこと、放射能のこと etc....。

反対したり、批判したり、人によって色々な捉え方があって当然だと思います。でも、実際起きてしまったこの出来事から、前へ進むこと、それは私達の共通の課題でもあると思うのです。

そして、その「前へ進む第一歩」は、起きてしまった事を「受け入れる」ことなんだと思いました。

それは黙って泣き寝入りするとは違うこと。人との関係でもきっとこれは同じだと思います。自分自身に対しても。自分のきれいな部分も、弱い部分もまず、受け入れないと、変えていけない。

そんな大切なことを知るきっかけとなりました。

私達は音楽と共に生活していく中で、音楽とは目に見えない心の場所を示してくれるようなものだと考えています。これからもし一人になったように思う時があったら、みんなで歌ったあの曲を思い出してもらえたらいいなと思います。



私達もきっと皆さんのことを思い出すことが、これから何度もあると思います。きっと皆さんも、これからの世界を変えて行く存在になっていかれるだろうと、期待しています！

素敵な気持ちや、笑顔をありがとう！
これからも、一緒に頑張りましょう。

Dew 勇気の力

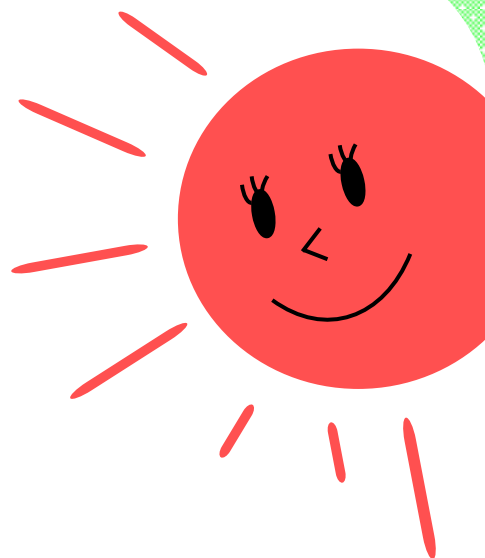


ねえ ほら思い切り
声に出してみよう
震えて見えた背中押す
大きな頑張りを



作詞・作曲 清水悠

出来ない苛立ち
ぶつかる事もあるけど
涙こらえて駆け出してく
そんな君が好き



叶わない夢だなんて
一人にならないで
声を合わせて仰いだ空
こんなにも青い

初めて知った熱い悔しさ
さあ行こう今
負けないように



そうだよ いつだって僕ら
何度も踏み出して行ける
みんなの気持ち 繋がってるよ

高鳴る胸が少し苦しいね
目を逸らさないで今
負けないように



頑張れ いつだって僕ら
思いを形に出来る
願いを込めて 諦めないの
叶えられる力があるから

頑張れ いつだって僕ら
思いを形に出来る
願いを込めて 諦めないの
叶えられる力があるから



そうだよ いつだって僕ら
何度も踏み出して行ける
悔しい気持ち 逃げない君は
超えて行ける力があるから

信じてほしい
君の勇気を



超えて行ける力があるから



大西 春奈

清水 悠



感 Dew ライブの様子は愛チカラのホームページから
見ることができます。

[愛チカラ](#) [検索](#)

Dew

共に高校 3 年間でカナダで過ごした 2 人は、学生生活の中で
自然と 2 人で歌うようになり、Dew が結成されました。

2007 年にはシングル「プレゼント」が、綾瀬はるかさん出演の
MAX FACTOR デュアル エフェクト ファンデーション の CM ソング
に起用され、最近ではスズキ新型パレットの CM ソング「季節を
追いかけて」が圧倒的な声の存在感で話題となりました。

公式ホームページ <http://dewy.jp/>

日本音楽著作権協会(出)許諾第1213536-201号





We are family

愛千カラスタッフ

阿部 拓洋(タクボウ)	後藤 香織(かおりん)	富田 正美(トミー)
飯田 恵司(メッシー)	小林 明日香(くろ)	中村 浩(中村さん)
石原 杏莉(あんちゃん)	小林 真美(まみつん)	中嶋 良輔(ちゃんきよ)
石原 なる美(みんみん)	斎藤 倫明(みちやき)	西野 功祐(さばお)
井谷 優太(工場長)	佐々木 拓弥(4 たく)	丹羽 茂男(にわさん)
揖斐 信輔(いびっち)	佐藤 商文(あつきー)	野田 実里(のだみ)
宇野 瑞帆(ばちゃん)	佐藤 匠(息子)	袴田 翔太(あきぐち)
遠藤 嶺(市長)	志治 友規(なんなん)	橋本 直明(なおくん)
大井 優子(たま)	清水 美帆(ほたちゃん)	服部 誠司(にんにん)
大石 義貴(けったー)	柴田 結実子(はな)	平田 大援(やったー)
大島 功(おじサンタ)	菅原 崇仁(ゆーじ)	穂苅 翼(山賊)
大波 尚美(きゃんみ)	杉浦 宣之(すぎさん)	前田 遥(はるぴす)
小川 彩央里(さおちゃん)	杉浦 有輝(びーん)	御堂 大貴(だいだい)
片山 日香里(ぴっかり)	鈴木 琢通(るい)	宮崎 彰顕(ざっきー)
川井 恵美子(ぐる)	鈴木 理恵(すーさま)	望月 美紗貴(ちゃー)
川瀬 綾乃(さば)	須田 元子(もっち)	矢野 江里(エリーゼ)
河田 朗奈(しろ)	高嶋 辰宜(たつつん)	山本 祐里(ゆりい)
北原 直樹(おにぎり)	高橋 恵子(KT)	横倉 亜美(あみい)
北村 有歌代(おかゆ)	高橋 舞(まいまい)	吉村 郁乃(のぎー)
木村 公美(ちゃんくみ)	登 智恵(ちゅーちゅー)	吉村 康範(よっしー)
小金沢 奈央(なお)	東松 広岳(トーマス)	(五十音順)

Thank you

We are family

ボランティア

伊藤 静香
大坪 聡美(さっとん)
大森 恭之(もみー)
大村 直美(にゃー)
神谷 早紀(さきつん)
加藤 沙耶(さーや)
加藤 達
加藤 慈(みるねえ)
神谷 訓生
神谷 八重子
菊池 千香帆(ちーず)
小林 未奈(みなちよ)
島立 翔(大将)
スコット・ジェームス・ソパー
高倉 彩奈重(さな)
高野 理恵(のっち)
竹内 敦希(にゅんちゅう)
竹内 正美(竹さん)

谷川 一成(パパりん)
谷川 美恵子(ママりん)
樋田 梓(たまご)
中谷 真由子(まゆこんぐ)
西谷 まゆみ
野々垣 結衣(がっきー)
林 佳奈(しふおん)
樋口 一則(お父ちゃん)
樋口 菊代(菊さん)
御堂 奈津貴(なっちゃん)
水澤 彰人(水澤さん)
村田 きみゑ
元山 文夫(げんさん)
山田 紫布(どれみ)
山田 千代(やまちょ)
渡辺 和広
渡辺 美紀

(敬称略・五十音順)

Thank you

We are family

協力して下さい方々

尾林 克時
村上 孝治
伊藤 実
清水 晃
清水 靖
尾林 威行
尾林 百花
尾林 結花
大井 孝市
村上 建治郎
桑原 裕子
本間 勝
大原 関衛
大脇 孝英
酒井 茂典
金山 有美
山口 清之
近藤 豊道
近藤 佳子
高橋 利美
今村 志づ江

紅林 健一
中神 享三
伊藤 郁生
野村 光子
高橋 喜治
伊藤 文忠
柴田 吉夫
佐々木 嘉朗
岡田 さとみ
平賀 英俊
丸山 昭彦
村雲 範彰
伊藤 一之
伊藤 雄一
山本 典式
高山 和也
伊藤 知幸
山本 誠
伊藤 喜久治
伊藤 明百
鈴木 統祥

鈴木 仲代
佐々木 実秀子
伊藤 加枝子
皆川 つや子
原田 咲子
佐々木 さくの
湯浅 寿子
佐々木 寿郎
佐々木 洋子
杉山 清康
鈴木 うた子
伊藤 喜治
中野 弘一
伊藤 久代
亀山 隆
鈴木 静
丸山 エツ子
原 さき子
初澤 宣亮
加藤 彰男
伊藤 利久

青山 進
佐々木 徳人
井筒 帆乃香
井筒 浩人
伊藤 芳孝
伊藤 加枝子
熊谷 禮
二継 都
田中 伸昭
和合 克美
桂木 勇
佐々木 徹
杉山 建雄
鈴木 政至
仲田 耕作
山口 勝行
内藤 済
宮本 典幸
伊藤 孝
河合 勝正
伊藤 浩亘

(順不同敬称略)

Thank you

We are family

協力して下さった方々

森上 祥高
原田 すみゑ
梅村 幸生
柳澤 由理
今泉 成二
大木 和彦
杉野 みつ子
中村 重保
大木 茂
新川 武夫
久保田 たけよ
尾林 経夫
尾林 良隆
中道 悠揮
鈴木 建太
深谷 勇美
山田 康博
滝 敏行
山中 裕香子
山中 遥也
山中 真拓

藤井 修
西脇 智則
加藤 英敏
舟橋 幸江
菅沼 憲昭
富永 章夫
小出 守彦
水野 昌樹
乃一 剛英
辻 根美
黒田 肇
矢田 ゆかり
太田 博之
海老澤 咲子
池田 誉生
松川 政憲
小島 みちこ
鈴木 宏司
石川 大志
後藤 美代子
絹川 努

前田 健司
澤田 真理子
若尾 僚彦
藤井 拓男
伊藤 和徳
小金沢 行夫
佐藤 宗
西園寺 由佳
加藤 明宏
加藤 敏彦
Edward Jones
大島 孝三郎
吉野 隆子
三浦 桂子
永田 則昭
小澤 幸伸
吉田 政一
十川 雄二郎
山下 保夫
中山 大志
鈴木 克幸

神谷先生
藤岡先生
秋葉 知子
太田 純子
伊藤 敏夫
近藤 貞恵
若井 芳己
近藤 まゆみ
ウツノミヤヒロト
タカヤマヒロシ
ニッタ モトヤス
テラニシコウキ
丸井 麻記子
伊東 知佳
後藤 あかね
友永 涼子
高坂 綾子
内藤 勝
多賀 元宏
愛芽

(順不同敬称略)

Thank you

● 共催

- ・小国からの咲顔(福島県伊達市小国地区任意団体)
- ・愛チーム(愛知県学生団体)
- ・プロジェクト大福(福島県学生団体)

● 後援

- ・愛知県
- ・愛知県北設楽郡東栄町
- ・愛知県北設楽郡豊根村
- ・福島県
- ・福島県教育委員会
- ・福島県伊達市
- ・福島県伊達市教育委員会
- ・福島県市長会
- ・福島県町村会

● 協力機関

- ・東栄町役場
- ・豊根村役場
- ・東栄町総合社会教育文化施設(東栄グリーンハウス)
- ・東栄町立東栄小学校
- ・東栄町立東栄中学校
- ・東栄病院
- ・新城市消防署東栄分署
- ・学校法人至学館大学 至学館短期大学部
- ・学校法人豊川閣妙厳寺豊川学園 豊川高等学校学園祭実行委員会
- ・学校法人安城学園 安城学園高等学校 3年8組生徒3名教員1名
- ・栗代山の学校
- ・新豊根ダム管理支所

● 協力企業・団体

御園花祭り保存会若連／NPO非営利活動法人「御園夢村興し隊」／和太鼓 志多ら／NPO法人 てほへ／とうえい温泉／名古屋イーストライオンズクラブ／名古屋東山ライオンズクラブ／名古屋天白ライオンズクラブ／名古屋昭和ライオンズクラブ／名古屋平成ライオンズクラブ／名古屋セントラルライオンズクラブ／名古屋守山ライオンズクラブ／名古屋城東ライオンズクラブ／名古屋名東ライオンズクラブ／名古屋千種ライオンズクラブ／愛知ひまわりライオンズクラブ／国際ソロプチミスト愛知ガーデニア／広川レディースクリニック

(順不同)



株式会社 喜多八／山口テレビ／森上建築／大木電機商会／料理旅館 大崎屋／昭栄
 工務店／サラダ館マルサ／辰巳屋／関口電気商店／近藤電気商会／鈴木建築工房／
 振草川漁協／TFC 594／えびすや釣り具店／コープあいち 新城センター／衣浦総合卸
 売市場／お魚の学校／おいしくたべようキッズクッキング／オアシス 21 オーガニックファ
 ーマーズ 朝市村の農家の皆様／苺農家 太田さん／JA あいち経済連 西春営業所／愛
 知東農業協同組合／日本モンキーパーク／財団法人日本モンキーセンター／若尾僚彦
 税理士事務所／胡豆昆／Japan MBA Forum／東栄タクシー有限公司／有限公司マルト
 ー食品／有限公司 森建設／有限公司 平田屋商店／有限公司 松並重機／有限公司
 青山工務店／有限公司ラッキースマイル／有限公司 カタリスト 日本の絆編集部／有限
 会社ヤマゼン塗装／有限公司 ショッピングセンターマルハナ 食彩広場 東栄店／有限
 会社 内藤精肉店／有限公司 山五原田松治郎商店／株式会社 ナカヤ／株式会社 村
 雲 工務店株式会社 とうえい／株式会社 佐々木組／株式会社 田中組／株式会社 東
 栄チキン／株式会社 カリテス／株式会社 アオキスーパー／株式会社奥様ジャーナル
 ／株式会社小出物産／株式会社 山六／株式会社 石川屋／株式会社 三旺インターナ
 ショナル／株式会社 スリーエム 日吉種鶏場／株式会社フェアリ・エンタテインメント／
 FUN-KOROGASHI KEN&みっちー／亀山建設株式会社／浜松ハム株式会社／ヤマサち
 くわ株式会社／日本ハム株式会社／米久株式会社／エスフーズ株式会社／イズミック株
 式会社／とよね観光株式会社／カクダイ製菓株式会社／伊藤ハム販売西株式会社／カ
 ネハツ食品株式会社／日本食研株式会社／東急建設株式会社／中日本フード株式会社
 ／アスゲン製菓株式会社／泉万醸造株式会社／豊田魚市場株式会社／山下寝具店 株
 式会社／スターゼン西日本販売株式会社／愛知メイカン株式会社／コカ・コーラ セントラ
 ル ジャパン株式会社／プリマハム株式会社／スギヤマ電業 株式会社／福島交通観光
 株式会社／チェンソーアートクラブ マスターズ・オブ・ザ・チェンソー 東栄／東栄まちづくり
 倶楽部／東栄宝の山づくり実行委員会／とうえい温泉 泉の会／東栄町商工会／東栄町
 森林組合／設楽町森林組合／吉岡木工所／おひさまの会／曹洞宗 長泉院／名古屋ワ
 イズメンズクラブ／東北応援団 東三河／半田南ロータリークラブ／NPO 法人 どんぐりモ
 ンゴリ／NPO as one／特定非営利活動法人 ななさとぐるーぷ／社会福祉法人恵の実・
 恵の実っ子クラブ／ハーレーサンタ CLUB NAGOYA／紙文総合販売株式会社／日通旅
 行／うどん屋 うめや／いとや／うどん屋 こてつ／堀田建築／QUI AMBULARE／森
 本商店／ソウルフラワーズ

(順不同)



National Institution For Youth Education
 独立行政法人 国立青少年教育振興機構

公益財団法人日本国際交流センター
 JCIE 震災復興支援プログラム
 メットライフ アリコ社員寄付 子ども支援プログラム

● 『愛チカラ』とは

▶ 日本の未来を担う“学生”と“若者”が主役の活動です—

当団体愛チカラは、2011年3月11日に起きた東日本大震災をきっかけとして、愛知県内の25大学の学生と、社会人が集まっている復興支援団体です。

被災された方々と“共に生きる”ことを大切にし、被災地の声に寄り添って、“イマ”必要な支援を展開し、現在は保養キャンプ事業の他、ボランティアバス事業、チャリティイベント・出前授業など7事業を行っている団体です。



お問い合わせ

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ

代表 石原杏莉 副代表 柴田結実子 事務局長 鈴木理恵

〒460-0017 名古屋市中区松原 1-3-5 605 号

T E L : 070-5623-6394

E-mail : aichikara2011@gmail.com

U R L : <http://www.ai-chikara.com/>

(愛知県防災ボランティアグループ 23 防危第 98-1 号)



編集・構成

吉村	郁乃	矢野	江里
山本	祐里	佐藤	匠
小林	明日香	野田	実里